

2024年度 成田空港アクセス交通実態調査の結果について

成田国際空港株式会社では、成田空港へのアクセス交通の利用状況を把握するとともに、今後のアクセス改善等に向けた基礎資料とするため、開港当初より実態調査を実施しております。

今般、昨年7月に行った調査結果を別紙のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の2024年度調査は、前回の2018年度調査からコロナ禍を経て6年ぶりに実施しております。なお調査方法は前回と同様に実施しております。

<調査概要>

◆入港車両カウント調査

【期間】2024年7月5日(金)

【方法】空港入場ゲート(計7か所)において、成田空港に入港する総車両台数を把握することを目的としたカウントを実施。

◆出発旅客アンケート

【期間】2024年7月5日(金)～12日(金)

【方法】各ターミナルビルの出発ゲートにおいて、出発旅客を対象にヒアリング形式によるアンケート調査(選択したアクセス交通手段や出発地点に関する意見等)を実施。

調査票数:12,875票

※今回の2024年調査の詳細につきましては、NAA ホームページに報告書を掲載しております。

<https://www.narita-airport.jp/ja/company/airport-operation/airport/research/>

2024年度アクセス交通等実態調査の結果 について（概要）

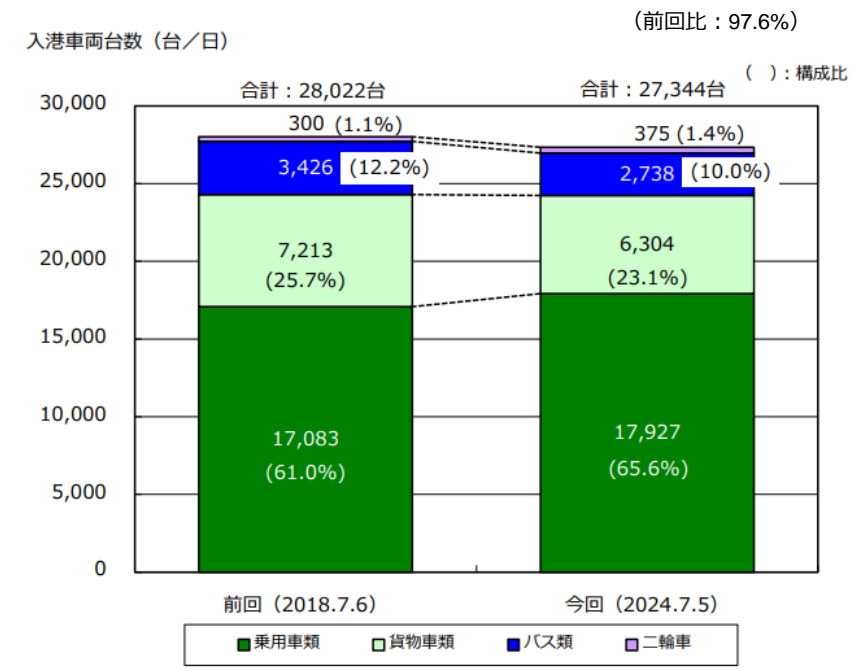
2025年3月
成田国際空港株式会社



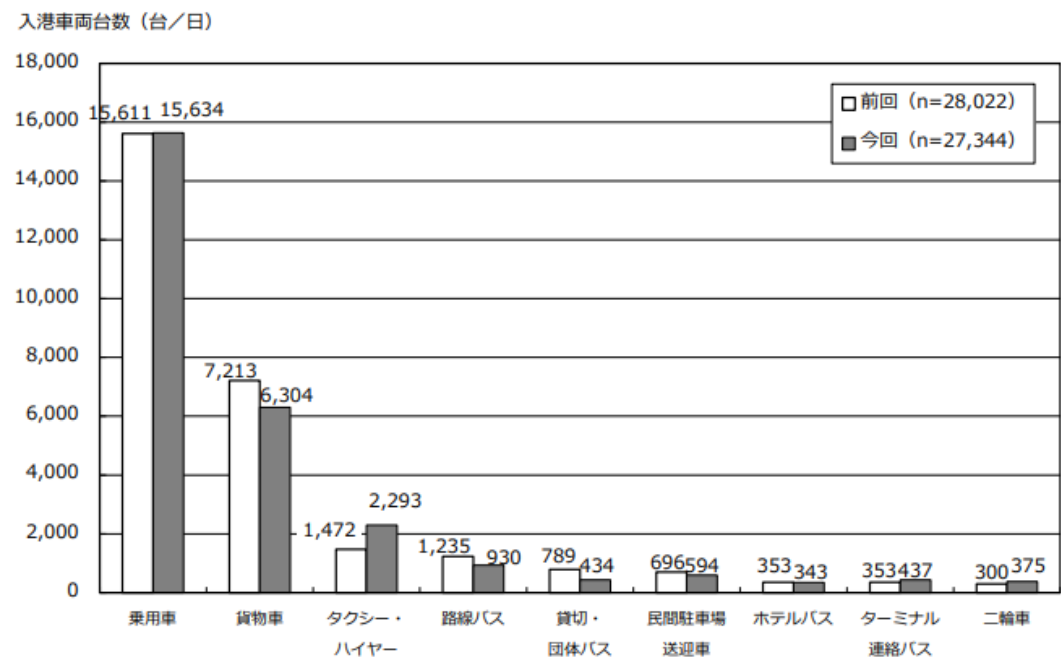
入港車両カウント調査

- 成田空港への入港車両台数は、全体で27,344台となっており、前回比で97.6%となっています。このうち乗用車類が最も多く65.6%、貨物車類が23.1%、バス類が10.0%となっています。
- 前回調査と比較すると、車種別の比率に大きな変化はありませんでした。

○ 全体の入港車両台数



○ 車種別入港車両台数



※ 乗用車類：乗用車、タクシー・ハイヤー
 貨物車類：小型貨物車、普通貨物車
 バス類：民間駐車場送迎車、路線バス、貸切・団体バス、ホテルバス、ターミナル連絡バス

出発旅客アンケート調査（全出発旅客）

- 鉄道類を利用するお客様の割合が10%増加しています。
- 自動車類（バス）を利用するお客様の割合が11%減少しています。
- 自動車類（自家用車等）を利用するお客様の割合が4%増加しています。

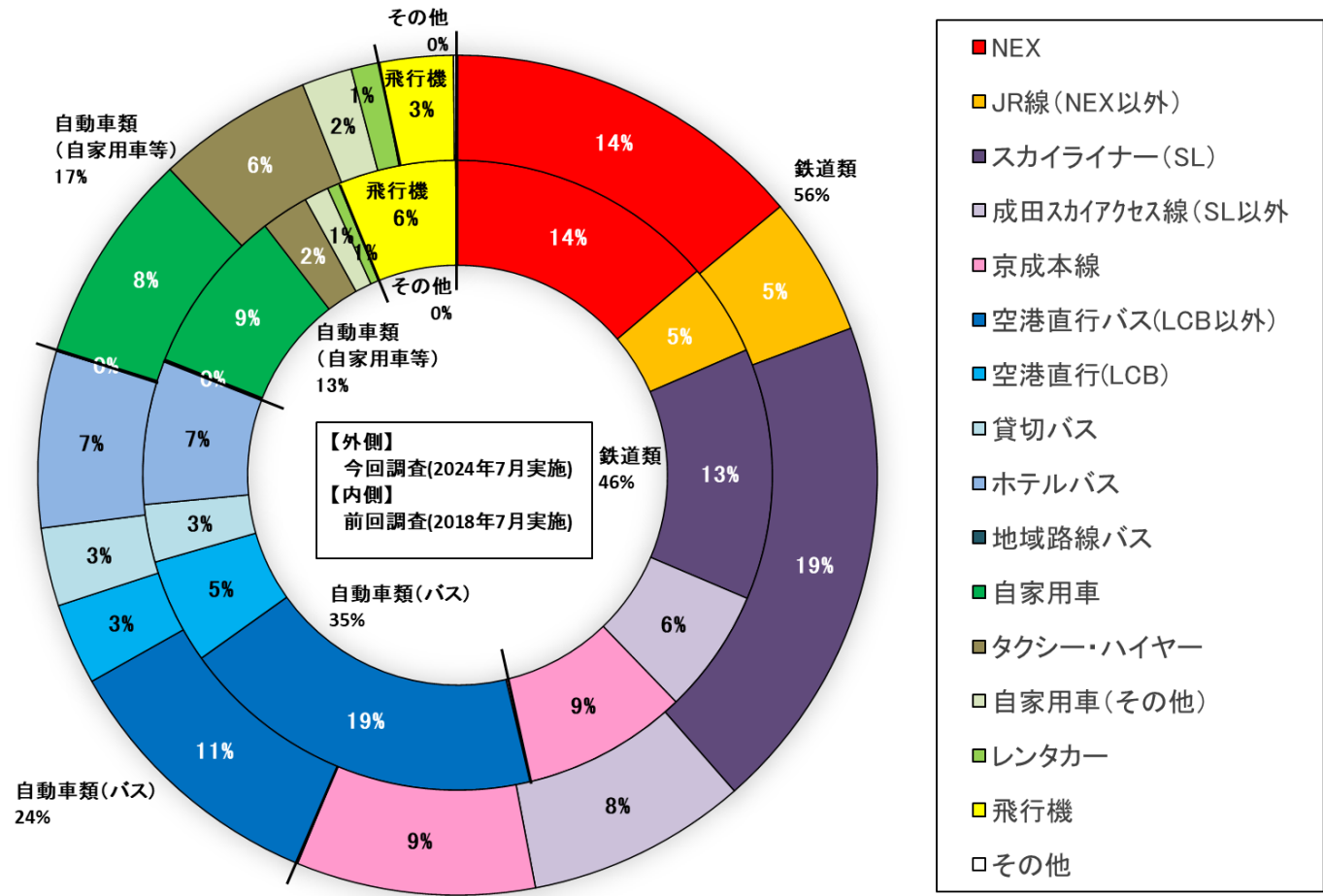


図-1 全出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

出発旅客アンケート調査（日本人出発旅客）

- 鉄道類を利用するお客様の割合が12%増加しております。
- 自動車類（バス）を利用するお客様の割合が13%減少しています。
- 自家用車等を利用するお客様の割合が3%増加しています。

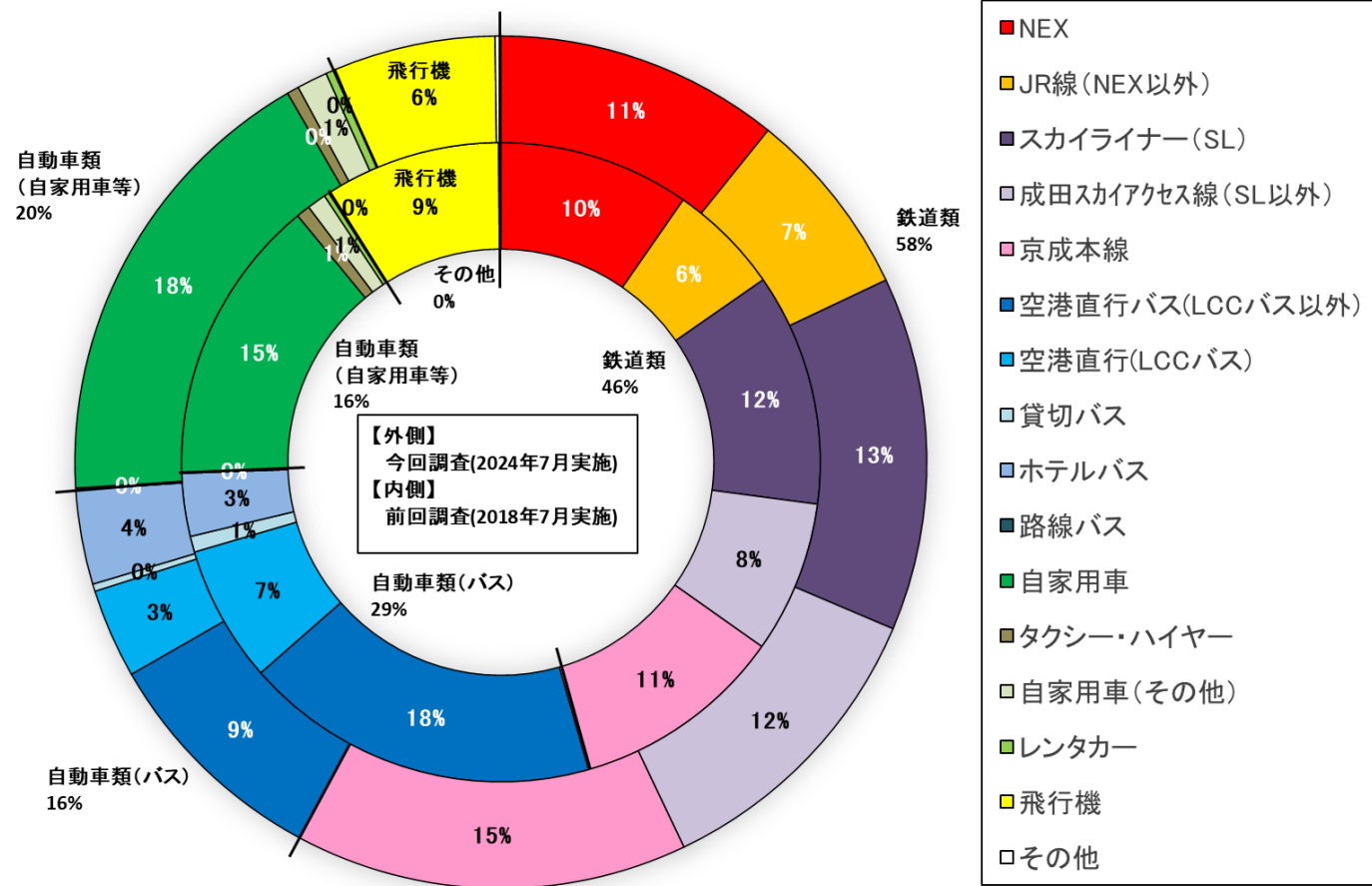


図-2 日本人出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

出発旅客アンケート調査（外国人出発旅客）

- 鉄道類を利用するお客様の割合が8%増加しています。
- 自動車類（バス）を利用するお客様の割合が13%減少しています。
- タクシー・ハイヤーを利用するお客様の割合が6%増加しています。

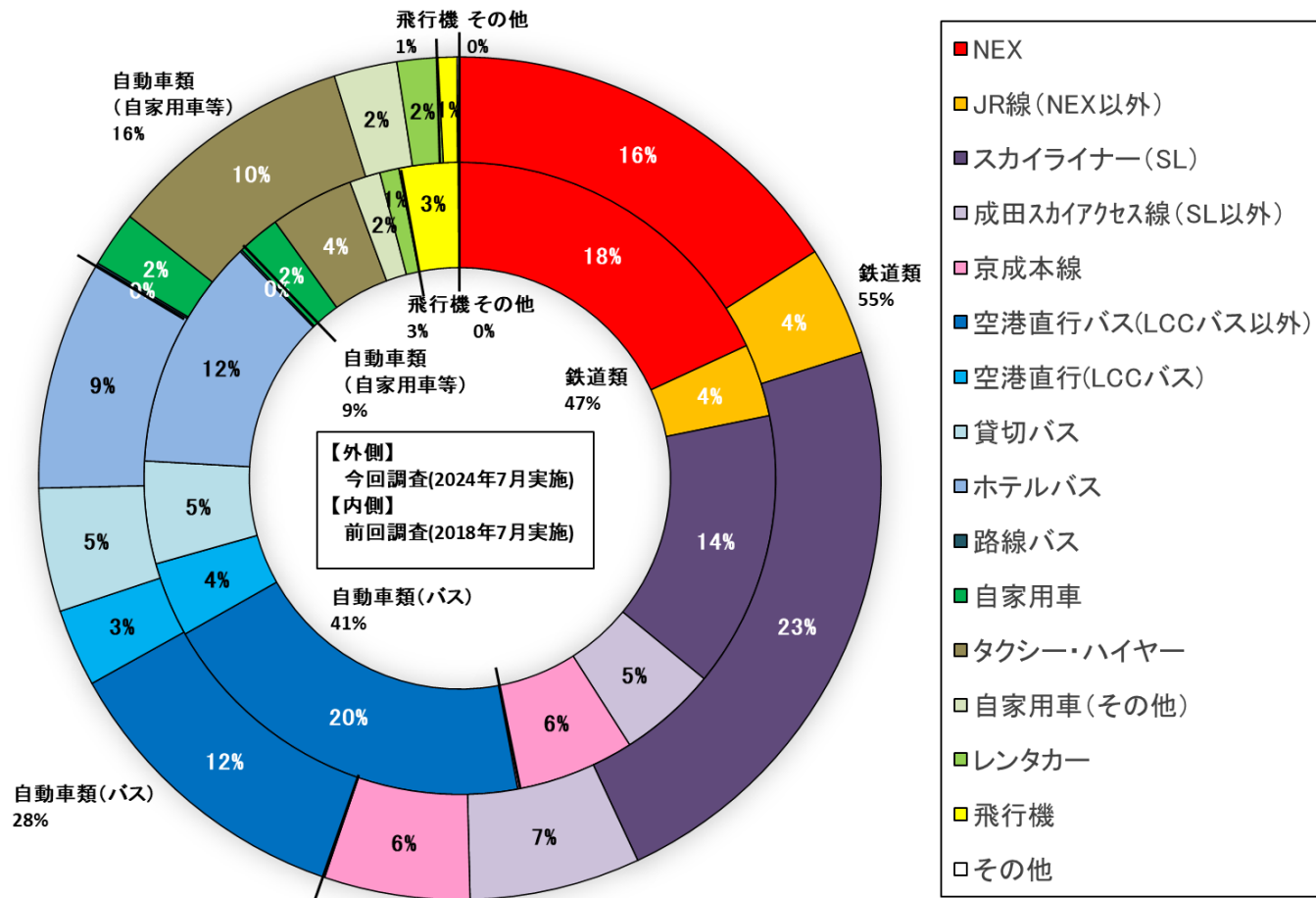


図-3 外国人出発旅客のアクセス交通機関構成比

注1) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

出発旅客アンケート調査（国際・国内線、ターミナル別出発旅客）

- 国際線を利用するお客様では、1PTB・2PTB、3PTBを利用するお客様ともに、交通機関の利用割合に大きな差は見受けられませんでした。
- 1PTB・2PTBを利用する国内線のお客様では、飛行機（国際線からの乗継ぎ）を利用する傾向が高く、飛行機の割合が大きいです。
- 国内線を利用するお客様に比べて、国際線を利用するお客様の方が、有料特急や空港直行バスを利用する割合が高くなっています。

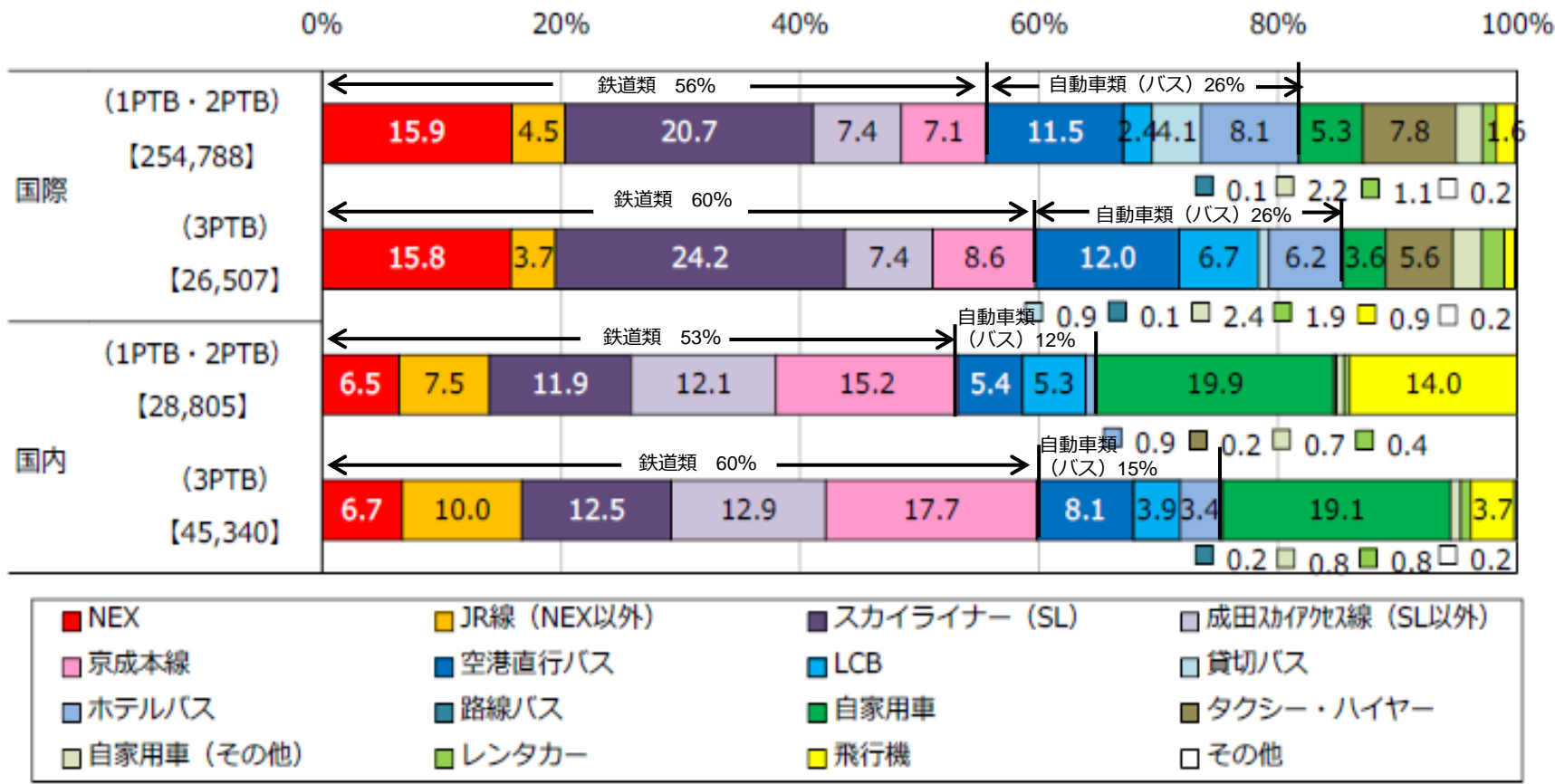


図-4 出発旅客のアクセス交通機関（国際・国内、ターミナル別）

■ 本調査の報告書を下記ホームページにて公開しておりますので、その他の調査項目につきましては、こちらをご覧ください。
 成田国際空港アクセス交通実態調査報告書ホームページ : <https://www.narita-airport.jp/ja/company/airport-operation/airport/research/>